

# 中村順平資料『中村順平問題表「鈴木秀一」』を中心として

林 要次

## 1. 緒言

本研究は、大阪歴史博物館共同研究「中村順平のスケッチブックと図面類の画題・作画時期解明に関する研究」の一部で、館蔵資料「建築家・中村順平資料」にある『中村順平問題表「鈴木秀一」』（以下、『問題表』）を対象に、その記載事項の整理と制作年代等を明らかにすることが目的である。

本研究対象である『問題表』は、2006（平成 18）年度に中村の教えを受け継ぐ檜の会（代表（当時）：松本陽一氏、横浜高等工業学校（現、横浜国立大学都市科学部。以下、横浜高工）建築学科 1942 年 9 月卒）から寄贈されたもので、中村が同校で学生たちに課した建築設計競技課題の題目に関する資料である。

『問題表』は管見の限りこれまで十分に整理されてこなかった。例えば建築史家三宅理一が指摘するように、中村の設計教育は中村が留学したフランスの建築教育機関で行われた「ボザール式の厳格な教育」<sup>1)</sup>で、当時の近代日本の建築教育において異彩を放つものであった。このことを考慮すると、本資料は中村の設計教育の一翼を担ったと考えられる設計競技課題の全貌を把握するための基盤資料としての役割が期待できる。また、2013（平成 25）年度に松本氏個人より寄贈された横浜高工の設計製図資料の制作年代等を特定する重要な手がかりとなり、本資料の整理・解明により館蔵の中村資料の正確性の獲得が可能だろう。

本稿では『問題表』を中村の設計製図教育における基盤的資料と捉え、中村が課した建築設計競技課題の全容の整理を主眼とし、具体的な課題内容等の分析は別稿に譲る。なお、『問題表』の内容精査にあたり、大阪歴史博物館蔵の建築設計競技課題文及び筆者が収集した課題文を参照し、より高い精度の資料となるよう配慮した。また、『問題表』の整理に加え、横浜高工での設計製図課題を中村が留学したフランス・パリのエコール・ナショナル・スーペリウール・デ・ボザール（Ecole Nationale Supérieure des Beaux-Arts de Paris。通称、エコール・デ・ボザール。以下、ENSBA）における建築設計競技課題と比較し、両者の類似点や相違点を明らかにする。

## 2. 「鈴木秀一」について

『問題表』の制作者は表紙や背表紙に記載されている「鈴木秀一」という人物が有力である。鈴木とはいったいどのような人物であったのだろうか。

鈴木は 1926 年神奈川県立工業学校（現、神奈川県立神奈川工業高等学校）建築科を卒業後、同年横浜高工建築学科の本科第 2 回生として入学した。1929 年に卒業した鈴木は研究生として継続して在学した。1 年間の研究生生活を終えた鈴木は、1930 年より現在の助手または助教に相当する「雇」という立場で中村の教育を支えた。1934 年に助教授に昇格した鈴木は建築学科の専門科目「規矩」及び「製図」を担当したことが『横浜高等工業学校一覽』（以下『一覽』）<sup>2)</sup>の教員名簿欄に記載された担当科目から読み取れる。なお、『一覽』の教育プログラム欄には「製図」という

科目は存在しないが、中村の担当科目「実習」が実質的な設計製図であったことを考慮すれば、中村の担当科目の補佐的な役割を担っていたと考えられる。

鈴木は横浜高工の在職期間は『一覧』や『文部省職員録』<sup>3)</sup>を総合すると1939年までで、その後の消息は現在のところ不明である。鈴木は教育者側の立場になった後も中村が出題する建築設計競技課題に挑戦し優秀な成績を修めたことが『横浜高等工業学校建築学科建築設計競技図集』(以下、『図集』)<sup>4)</sup>から読み取れる。

こうした教員としての側面の他に、1937年に刊行された『図集』の編著者としての役割は鈴木は教員時代の功績の一つだろう。『図集』末尾の編著者欄には「出版会 代表者 鈴木秀一」の名が記載されており、『図集』編纂の中心的な役割を演じたことがわかる。この鈴木は役割を考慮すれば、『問題表』は『図集』発刊に向けた中村の設計課題の調査リストであった可能性が指摘できる。

### 3. 『問題表』の概略

『問題表』はA4版右側綴じの綴込表紙に65枚の紙が差し込まれている。表紙には「中村順平 問題表 「鈴木秀一」と記載されているが、背表紙では「中村順平 問題集年代表 「鈴木秀一、他」という記載となり両者に微妙な差がみられる(図1)。1枚目には他の用紙と異なる大きさの紙が挿入され、横浜高工建築学科第1回生網戸武夫の事務所押印がなされている(図2)。後年網戸が中村資料を管理するにあたり挿入したものとみられる。2枚目以降から建築設計競技課題の題目に関する情報が記載され、最終の65枚目は白紙である。

図3のように記載事項は各紙片面にのみ記され、回生別と課題種別の2つのリスト群の構成である。前半の回生別リスト群は中表紙1枚と回生別リスト計35枚からなり、後半の課題種別リスト群は中表紙1枚と課題種別毎のリスト計22枚及び未分類の課題名リスト計4枚で構成されている。

回生別リスト中表紙には「横浜高工 建築学科 年代順問題集 1935.8.26. 鈴木秀一調」という記載がある(図4)。綴られた回生別リストは本科第1回生から第17・18回生<sup>5)</sup>及び研究生第1回生から第5回生、ならびに1942・43(昭和17・18)年度の課題種別記号、課題名、出題期日、備考、制作期間が概ね時系列で記載され、中表紙の年月日を超えた情報が記載されている。

一方、課題種別リストの中表紙には「横浜高工 建築学科 アナリチック 一二時間エスキス 一六時間エスキス アルケオロジー 本設計 エスキス及本設計 三日間設計 線配景図 廿四時間 種類別問題々名集 1935.8.20. 鈴木秀一調」という記載がある(図5)。しかし、リストの順序は中表紙の記載順とは異なり表1のような順で10種に分類されている。なお、表1の作成にあたって各課題種別のリスト枚数及び掲載課題数を併記した。

回生別リスト掲載課題は全666題である。それぞれの課題には主として「ア」「㊦」「三」「セ」「エセ」「エセコ」の6種の種別記号が振られている(図6)。課題種別リストとの対応関係をみると、「ア」は「アナリチック」、「㊦」は「16時間エスキス」または「12時間エスキス」または「24時間エスキス」のいずれか、「三」は「3日間設計」、「セ」は「設計問題」、「エセ」は「エスキス及本設計」ということがわかる。「エセコ」については課題種別リストにない分類であるが備考欄の「最終設計」や提出期限の「第3学期末」という記載が共通している。

2つのリスト群の特徴として2種の筆致の存在が挙げられる。背表紙記載の「他」という表記から『問題表』の作成者として鈴木以外の関与が考えられる。図7及び図8からわかるように1939年10月を境として筆致は異なり、それ以前とそれ以降の作成者、少なくとも2名によりこの『問

題表』が作成されたのだろう。2種のリストの中表紙の情報に従うならば、概ね第9回生が第3学年を迎えた時期に鈴木が纏めたことになるが、筆致から判断すると鈴木が第13回生途中までを記載し、それ以降を別の人物に委ねた可能性がある。そこで追記した人物の特定にあたり、横浜高工建築学科卒業生で松本氏の同級の大西春雄氏にヒアリングし筆致の鑑定を試みた。

その結果、神戸蕃の筆致であるという証言を得た<sup>6)</sup>。神戸は同校第9回生で1936年3月の卒業後「雇」として同校建築学科を支え、1940年より助教授として「図学」を担当し、中村考案の設計課題文の清書を担当した人物である。また、課題種別リストに続く、未分類の課題リストの筆致が神戸のものであることもわかる。なお、鈴木と神戸の筆致を判別するため同名の課題文を参考とした。作成時期の異なる課題文を比較し、鈴木と神戸がそれぞれ作成した同名の課題文の筆致(図9・10)からも『問題表』が鈴木と神戸によるものであることがわかる。

以上より、『問題表』はそのタイトルにある「鈴木秀一」の単独作成資料ではなく、鈴木と神戸による調査資料で、神戸担当部の作成時期は不明だが、1939年10月までを鈴木が作成し、それ以降を神戸が纏めたものといえる。

#### 4. 回生別リストの特徴

各回生リストの1枚目の用紙右上部分に人名と思われる表記が確認できる。例えば図11にあるように「網戸石塚時代」という記載がある。「時代」という表記から、この記載が各学年を代表する人物の苗字である可能性が指摘できる。『一覧』記載の学生名簿及び横浜国立大学建築学教室同窓会水煙会会員名簿を参照し、記載された人物の具体的な姓名の特定を試みた。

表2は回生別に特定した人名を記載し、リスト枚数、課題数、課題内訳として前記6種の記号ごとの課題数とその他の課題数を併記し整理したものである。なお、課題内訳分類中の括弧書き表記は具体的な種別記号の記載がないもので、過去の出題例などから想定される種別に分類した。

また、表3には表2作表の根拠となる全課題の詳細を列挙した。列挙するにあたりリスト上の順序を踏襲するとともに表3の種別記号には前記6種の他、「アナリチック」と「エスキス」の融合課題の「アエ」、「線配景図」の「ハ」、「アルケオロジー」の「アルケ」、「構造図」または「構造詳細図」の「構造」、「詳細図」の「詳細」の5種を加えた全11種で分類し、可能な限り提出期限と特定可能な出題時期を併記した。なお、表2、表3作表にあたって回生別リストに表記された「㊦」は「エ」と表記し、「最終設計」や「第3学期末」の表記は「第3学期末」に統一した。

表3から第18回生までの本科生用課題が572課題、研究生用課題が94課題出題されたことがわかる。回生別でみた場合、最大出題数を誇る学年は1936年度の第10回生で50課題出題されていた。一方、最低出題数は第18回生の8課題であった。第1回生から第18回生までの平均課題数が31.77題、第2次世界大戦中の繰り上げ卒業が行われた第15回生以降を除いた平均では35.78題であった。

1936年度の最も多く出題された課題種別は「エスキス」で、約6割にあたる29課題を占め、そのうち26課題が「16時間エスキス」で「エスキス」課題の大半を占め、残り3課題は「12時間エスキス」で学年度末に集中して出題された<sup>7)</sup>。

また、「エスキス」について「アナリチック」が多く、1936年度では18課題が出題された。「アナリチック」は「エスキス」とは異なり、概ね1～2週間で完成させる課題であった。

このように、1936年度を見ると「エスキス」及び「アナリチック」課題が計45題出題されており、

設計競技課題の9割を占めている。また、全課題における両課題の割合が約8.5割であったことから横浜高工の設計製図教育は、『図集』の中村の序文にあるように、基礎力重視の教育であったといえる。

## 5. 中村の設計製図教育の概要

中村はどのような設計製図課題を学生たちに課したのか。その概要を整理する。

横浜高工は1920年に創立された官立学校で、創立当初、機械工学科、応用化学科、電気化学科の3科で開学した。1923年9月の関東大震災により、当時の校長鈴木達治が建築学科、土木学科の必要性を説き、2科の増設を国へ進言し、結果として、建築学科のみの増設が認められた。そして、建築学科は中村を主任教授に迎え、1925年4月に新設学科としてスタートした。中村の教育は前述のようにENSBAを意識した設計重視の建築教育であった。

『一覽』によれば、中村が横浜高工で担当した科目は主に「建築学」「実習」で、その他の専門科目は中村以外の教師によって講義された。「実習」科目は建築学科開設からの2年間、第1学年は「アルケオロジー」、第2学年は「クラシック」、第3学年は「設計」と分類されていたが、この分類は開設3年目より「図学実習」と「設計製図」の2つに分類された。

中村は1937年に上梓された『図集』の序文で自身の設計教育の考えを述べている。中村は「実習」科目を「基礎課程」、「練磨課程」に二分し、後者をさらに「基礎設計練習」、「創作的設計練習」の二分し、学年単位での課題を設定せず、各学生の進度に合わせ選択できる自由度の高い設計教育を行ったことが序文から読み取れる。

中村は「基礎課程」において「dessin d'architecture」すなわち「建築図画」と呼ばれた製図課題を課した。この「基礎課程」は中村が担当した「実習」科目の「図学実習」に相当し、主として西洋建築及び日本建築に関するトレース課題が課された。中村は原則として西洋と日本をテーマとした図面を3枚描くことを学生たちに求めたが、実際に3枚描いた学生は少数であった。西洋建築では各種のオーダーから、日本建築では日本の古建築をテーマとし、それぞれ1枚描き、さらに、西洋、日本のいずれかの時代を選択し、その時代を代表する建築と風俗などを融合し、1枚に構成した図面を描くことで、学生たちは上位の「基礎設計練習」の課題に挑戦することができた。

「基礎設計練習」以降が中村の「実習」科目における「設計製図」に相当し、競技形式の課題が出題された。「基礎設計練習」の課題では「Element d'analytique」(原綴ママ)、「十六時間エスキス」の2種が用意された<sup>8)</sup>。「Element d'analytique」は『問題表』における「アナリチック」に相当する課題である。これらの課題の評価方法は得点制で、1課題の最高得点を20点と設定し、合計150点以上を取得することで、上位の「創作的設計練習」課題への挑戦が可能となった。なお、中村の序文表記と課題文上の課題種別の表記は異なり、前者の課題は課題文では「アナリチック問題」、後者は「十六時間エスキスエスキス」と表記されている。

中村は前者の課題で修得すべき重要な骨子として次の5つを挙げている。

- ① 過去のclassiqueの芸術とその時代構造との関係の研究
- ② これら諸建築に関するcaractère表現上の研究
- ③ 以上より健康なる芸術批判力の養成と美しきclassique比例よりする精神上的の審美眼滋養
- ④ 過去各時代の遺産として、又時には世襲財産として吾等に残されたる建築諸要素上の知識
- ⑤ 過去東西建築のcomposition上のtechniqueの会得及び技能の上達

中村は上記の習得を目的として建築上の諸要素の分析的な研究課題を学生たちに課し「将来自由に composition をなし得べきその能力を育成」<sup>9)</sup> することを目指した。また、中村は日本及び外国の「classique (世にこれを古典式と訳し様式的の意味に解するは誤り) の建築上の諸要素」<sup>10)</sup> をこの課題の対象とし、その後続く、「創作的設計練習」の土台づくりを意図していた。

なお、中村の定義する「クラシック」classique は、「論理、合理的な伝統と、崇高なる原理よりする、深い尊敬を以て、神聖視せられた建築諸要素の研究を基礎」<sup>11)</sup> であり、それは「何等の起源、時代、世紀、又は場所を意味するものではなく、否、寧ろ此等の時代を超越し、国境を超越し、流派を超越して変遷したる芸術の、総ての勝利者」<sup>12)</sup> を示していた。また、中村が示す「勝利者」とは「世の永い批評の歴史を経て、なお美しい物という名声を保持し続けている」<sup>13)</sup> ものであり、中村は「勝利者」であることが「クラシック」と呼ばれる必要条件であると述べ「クラシック」の実例を著書『建築学総説篇』(1944) や『建築という芸術』(1961) で具体的に提示している<sup>14)</sup>。

一方、「十六時間エスキス」は「創作的設計練習」における「エスキス」の「下稽古」<sup>15)</sup> と位置づけられ、課題が与えられた際にその根本的な設計方針を素早く発見するために必要な能力の向上を目的として行われた。なお、この課題は中村の講義修了時に出題されることが多く、講義修了後の夕方以降に出題され、翌日の同時刻を提出期限とした。出題から提出までの 24 時間から睡眠時間を差し引いた 16 時間が基準制作時間となり、この課題名がついた。

「基礎設計練習」に次いで行われた課題が「創作的設計練習」である。この「創作的設計練習」では、「archéologie 競技」、「十二時間エスキス」、「二十四時間エスキス」、「本設計」、「エスキス (十二時間) + 本仕上」、「エスキス (十二時間) + 本仕上 + 構造設計」の 6 種の課題が用意され、「基礎設計練習」の採点方法とは異なる順位付けが行われた。「創作的設計練習」では課題により異なるが概ね金賞・銀賞・銅賞・選・落の 5 つで評価された。

「archéologie 競技」は課題文では「アルケオロジー競技問題」と名付けられた課題で、「製作入選は建築図画又はアナリチックの一として換算すべし」<sup>16)</sup> とあるように、「基礎課程」における「建築図画」や「基礎設計練習」の「アナリチック」に類似する課題で、歴史的な建造物を対象に実測図を描かせる出題もなされた。

「十二時間エスキス」や「二十四時間エスキス」は課題文ではそれぞれ「十二時間エスキスエスキス」、「二十四時間エスキスエスキス」と名付けられた課題であった。「基礎設計練習」の 16 時間に比べて、短い時間で仕上げる 12 時間の課題は、「エスキス (十二時間) + 本仕上」、「エスキス (十二時間) + 本仕上 + 構造設計」の「下稽古」課題として位置づけられた。

「本設計」は課題文では「本設計問題」や「三日間設計問題」、「一週間設計問題」などと名付けられ、統一された問題形式ではなく「エスキス (十二時間) + 本仕上」よりも短い期間で行われる設計課題であった。

「エスキス (十二時間) + 本仕上」は課題文では「エスキス及仕上設計問題」や「エスキス及本仕上設計問題」と名付けられ、通常 12 時間で「問題に対して答ふべき根本的な設計方針」<sup>17)</sup> を定め、その設計方針に基づいて仕上げを施した図面を提出する数か月の課題であった。

「エスキス (十二時間) + 本仕上 + 構造設計」は、前述の「エスキス (十二時間) + 本仕上」課題に加え、「構造図をも要求する競技設計」<sup>18)</sup> であった。中村によれば、「修学期間の短かい自分の学校では、既に三年生の第三学期に亘って之を行はし」<sup>19)</sup> た課題で、他校における卒業設計の役割を担っていた。なお、中村は卒業設計を「自ら問題を考案して設計する如きは、無意義若しく

は有害な場合さえ多い」<sup>20)</sup>とし、「不完全な問題を起稿する如きはありがちであり、設計盗作も亦容易」<sup>21)</sup>と述べ、横浜高工では最終学年の集大成として卒業設計を課すのではなく、その代替の課題として「エスキス（十二時間）＋本仕上＋構造設計」を課した。

中村の「図学実習」と「設計製図」は以上のような課題構成であった。「図学実習」の中心であった「建築図画」は折に触れその体験談や制作方法、実際の図面などが展示解説されている<sup>22)</sup>。一方、「設計製図」については上記の概要をまとめるにあたり参照した『図集』が最もその内容を伝えているが、その課題の全貌はあまり明らかになっていない。本研究対象の『問題表』は「練磨課程」の設計課題名が列挙されたリストであり、中村の「設計製図」課題の輪郭を浮かび上がらせる重要な資料といえる。

## 6. ENSBA の設計教育システム

横浜高工の課題分類は中村が留学した ENSBA の設計教育システムを参照した可能性がある。ENSBA ではどのような設計製図教育が行われていたのか。中村の留学期前後を中心に整理する。

ENSBA では年 2 回入学試験 *Epreuves d'admission* が行われ、入学試験合格者は同校の下級課程にあたるセコンド・クラス *Seconde Classe*（以下、SC）へ登録が許された。そして、SC 課程登録者は同課程での所定単位 *valeur* を取得することで上級課程にあたるプルミエール・クラス *Première Classe*（以下、PC）へ進級できた。そして、PC 課程の学生たちは SC 課程同様、所定単位を取得することで、フランスにおける国家公認の建築家資格を取得するための登竜門である卒業制作提出資格が得られた。PC 課程までを年限までに修了した卒業制作提出資格取得者は、所定の実務経験を経ることで卒業制作の提出が可能となり、卒業制作提出後、口頭試問に合格した者が、フランス政府公認建築家資格 *Architecte D.P.L.G.* (*Diplômé par le gouvernement* の略) を取得した。中村の場合、1921 年 7 月 15 日に ENSBA への登録を果たし、以上のプロセスを経て 1923 年 11 月 14 日付でフランス政府公認建築家資格を取得した。

SC・PC 課程では具体的にどのような科目が開講され、どのような設計課題が課されていたのか。

SC 課程の学生たちは座学と設計演習課題に挑み、PC 課程進級に必要な単位数の獲得を目指した。SC 課程では座学で獲得する単位数が、設計演習課題で獲得する必要最低単位数を上回っており基礎力強化が図られている。なお、主な座学科目は、「建築理論」*Théorie de l'architecture*、「透視図学」*Perspective*、「截石学」*Stéréotomie*、「構造力学・材料力学理論」*Statique et théorie de résistance des matériaux*、「幾何図学」*Géométrie descriptive*、「構造」*Construction*、「フランス建築史」*Histoire de l'architecture française* であった。

これらの科目では筆記試験や口頭試問のほか、設計や製図の実技試験などが行われ、試験結果に応じて付与される単位が異なっていた。SC 課程の座学で最も重要な科目は「構造」で、この科目の最終試験の受験にあたっては事前に「截石学」「構造力学・材料力学理論」「幾何図学」の 3 科目の単位取得が必要とされた。そのため、たとえ設計演習課題で求められた最低単位数を獲得したとしても「構造」の単位取得如何によって PC 課程進級が左右された。

設計演習課題は座学の一つ「建築理論」と密接に結びついたものであった。課題の考案は「建築理論」の担当教師が行った。なお、中村留学期には「建築理論」講義は休講であったが、「建築理論」の担当建築家が課題作成者であった。

設計演習課題は「設計競技」*Concours d'émulation* と呼ばれ、“*Elément d'analytique*” という

「要素分析」課題、“Esquisse”という12時間で仕上げる「エスキス」課題、“Projet rendu”という通常1～3か月で仕上げる「設計」課題の3種類の課題が各年度それぞれ6題出題された。

「要素分析」では、古建築を構成する各種オーダーや断片、立面の一部や列柱等の主要要素の一部をテーマとした課題が出題され、図面一枚に構成することが求められた。「エスキス」は、小規模建築や大規模建築の一部分、家具や調度品などが課題として出題され、12時間で図面一枚に立面を中心として構成し、平面や断面を加えて描きあげる課題であった。「設計」は、課題出題日に学内において12時間で設計方針を定め、その後、その設計方針に従い自身が所属するアトリエにおいて提出図面を提出までの期間をかけて作成する課題であった。この「設計」では、敷地配置の条件や必要諸室等、エスキス課題よりも具体的な設計要件が与えられた。

SC課程の学生は「要素分析」において2単位以上、「エスキス」・「設計」において4単位以上、計6単位以上を設計課題で獲得する必要があった。それぞれの課題から獲得できる単位は、優秀作品の場合1課題あたり2単位、優良作品の場合1課題あたり1単位与えられ、いずれにも該当しない作品には単位は与えられなかった。学生たちは提出可能な課題を各自が取捨選択し、PC課程への進級に必要な6単位の取得を目指した。

また、これらの設計競技と並行し「構造」の最終試験課題として年度末に“Projet de Construction générale”と呼ばれる「構造設計」課題が各年度1題のみ出題された。この最終試験による単位獲得によりPC課程への進級が可能となったことから、この課題がSC課程で最も重要な課題であった。なお、通常この課題は「構造」の担当教師により作成されたが、中村留学期のこの課題はそれまでのENSBAの出題方法とは異なるものであった。中村の留学期は「建築理論」の担当教師が出題した「設計」に「構造設計」を融合した特殊な形式で出題された。この方式は1919年に着任したENSBA出身の建築家で技術者のエドワー・アルノー (Edouard Arnaud, 1864-1934) が考案した実験的なスタイルの課題で、1920年度から2年間のみ行われた独自の課題出題方式であった。中村はこの特殊な課題を経験した。

一方、PC課程では、SC課程と同様に「エスキス」と「設計」が各年度それぞれ6題用意され、さらに、「建築史設計」Histoire générale de l'architecture や「ルージュヴァン賞設計競技」Concours Rougevin、「ゴドブフ賞設計競技」Concours Godeboeufなどの副賞のついた課題が用意された。なお、こうした設計課題のほか、PC課程においても座学は開講され、法規や物理・化学などの座学や石膏木炭写生や石膏塑像、装飾画等による単位取得も可能で、卒業設計提出資格を得るためには10単位以上獲得する必要があった。

PC課程の「エスキス」・「設計」はSC課程よりも複雑な内容も含まれたが、その制作プロセスは両課程同様であった。一方、PC課程の各課題の単位設定はSC課程よりも細分化され、1課題あたり最低0.5単位、最大3単位獲得可能であった。

以上のように、ENSBAの設計教育では「エスキス」・「設計」が両課程を通じて行われ、歴史的な建造物に現れる要素の研究課題としてSC課程では「要素分析」が、PC課程では具体的な「建築史設計」が行われた。

## 7. ENSBAと横浜高工の設計課題種別・課題数比較

以上のENSBA分類から横浜高工の設計課題分類がENSBAの方式に近いことがわかる。

中村の「基礎設計練習」の「アナリチック」に「Element d'analytique」(原綴ママ)の記載が

あるように、この課題が ENSBA の SC 課程の設計競技課題の一つ「要素分析」に相当することがわかる。また、「基礎設計練習」と「創作的設計練習」の「エスキス」は時間数の違いはあるものの ENSBA の同名の課題が意識されている。

「創作的設計練習」の「archéologie 競技」は、ENSBA の「建築史設計」を意識した可能性が指摘できるが、「建築図画」や「アナリチック」の得点への加算が可能であったことを考えると、ENSBA の「要素分析」にも相当していたのだろう。「創作的設計練習」の「本設計」や「エスキス(十二時間) + 本仕上」は、ENSBA の「設計」に相当し、「エスキス(十二時間) + 本仕上 + 構造設計」は ENSBA の「構造設計」に相当する。

以上より両校の課題種別の対応表(表 4)を作成した。

中村は雑誌『新建築』に寄稿した「パリ美術院Ⅱ」<sup>23)</sup>において、「構造の伴う建築設計コンクール」、すなわち「構造設計」が ENSBA の SC 課程での習熟度を測る課題として設定されていたことを述べている。この発言と「エスキス(十二時間) + 本仕上 + 構造設計」が横浜高工の最終課題であったことを考慮すれば、中村が横浜高工における設計教育レベルの到達点を ENSBA の SC 課程修了程度と設定していたといえる。また、横浜高工の教育レベルを ENSBA における SC 課程程度と捉えれば、ENSBA の PC 課程を想定して中村は学外に中村塾を設置し横浜高工において研究生を受け入れたのだろう。

一方、採点方法は、横浜高工と ENSBA では若干の相違点を確認できる。ENSBA では「賞」や「選」などで評価され課題によりそれぞれ異なる単位数が割り当てられ、上下の両課程で同様の評価方法がとられていた。一方、横浜高工では「基礎設計練習」の採点において 20 点満点制が採用され「創作的設計練習」の課題では金・銀・銅賞・選・落とといった採点方法が適用された。最高点を 20 点とした「基礎設計練習」の採点方式は ENSBA における入学試験の採点方式であり、「創作的設計練習」課程の採点方式は ENSBA の上下 2 級の採点方式に倣ったといえ、各課題の性質による得点設定や配点方法に両校の相違点と類似点がみられる。

また、両校の課題数を比較すると次のことがわかる。

例えば、中村の入学年度の 1921 - 1922 年度の課題を見ると、年間の出題数は 2 級課程において、「要素分析」が 6 題、「エスキス」が 6 題、「設計」が 6 題、「構造設計」が 1 題、計 19 題、1 級課程において、「エスキス」が 6 題、「設計」が 6 題、「建築史設計」が 2 課題、計 14 題、上下課程の合計で 33 課題が年間に提出された。さらに、単位取得が可能な副賞付きの「設計競技」課題として「ローマ大賞」Grand Prix de Rome、「ゴドブフ賞」、「ルージュヴァン賞」など 8 課題<sup>24)</sup>があり、これらを加えると合計 41 課題となる。

この数字と横浜高工の 1936 年度の課題数を比較すると、「エスキス」課題では、ENSBA の年間 12 課題に対し、横浜では約 2.5 倍の 29 課題出題されている。また、中村の「要素分析」課題は ENSBA の 12 課題に対し、横浜では約 1.5 倍の 18 課題であった。一方、中村順平の「12 時間エスキス + 本仕上」課題は、ENSBA と比較し明らかに少ない。両校の課題分類と年間出題課題数を比較した結果、中村の出題数を平均値で見た場合、中村は ENSBA の副賞付き課題を除いた課題数に相当する量の課題を作成し、ENSBA に比して基礎課程を重視した傾向が読み取れる。また、設計課題のほか、前述のように初学者に対して「建築図画」が 3 題課されたことを考えると、1936 年度の学生には 53 課題以上用意され、設計製図課題の選択肢の多さが読み取れる。



## 8. 結

本稿では『問題表』の回生別リストに掲載された全 666 課題の課題名とその概要をリスト化し、中村が担当した「実習」科目における「設計製図」の課題を整理した。

『問題表』の制作者については資料表紙・背表紙に記載のある鈴木に加え、神戸の存在が明らかになった。また、回生別リストから中村が「アナリチック」及び「エスキス」に注力し課題を出題していたことが判明した。両課題の課題数の合計は 564 課題で全課題数の約 85%を占めており、ENSBA の約 44%とは異なる課題分布の傾向がみられた。こうした傾向から中村の教育方針が基礎力向上を重視したものであることが読み取れる。

一方、中村の採点方法には若干の違いが見られるが、課題種別は ENSBA の課題種別を概ね踏襲しており、ENSBA の設計製図教育を意識した構成であった。また、最終学年に課した課題種別から ENSBA の下級課程レベルを意識した設計製図教育が行われていたことも読み取れる。

今後、課題リストの整理を踏まえ、リストに対応する課題文の整理や具体的な課題内容を整理する必要があるだろう。当時の設計教育においてどのような課題が出題されたのか、他の近代日本の建築教育機関における設計課題等との比較のみならず近代フランス建築教育を導入した他の国々との比較を通じ中村の設計製図教育の独自性や共通性を浮き彫りにすることで、その歴史的価値の再評価が期待できる。

## 参考文献

- Drexler, A. (éd.) : The Architecture of the Ecole des Beaux-Arts, Museum of Modern Art, 1977  
Ecole nationale des beaux-arts, section d'architecture (éd.) : Les concours d'architecture de l'année scolaire 1921-1922, Auguste Vincent, 1922  
Feihl, J. N. : Dessins d'architecture. Les travaux de l'élève architecte Frédéric de Morsier à l'Ecole des Beaux-Arts de Paris 1882-1890, Presses polytechniques et universitaires romandes, 2011  
網戸武夫『情念の幾何学：形象の作家中村順平の生涯』建築知識、1985  
中村順平「パリ美術院 I～VII」『新建築』1968年2～8月号、新建築社、1968  
日本建築学会編『近代日本建築学発達史』丸善、1972  
林要次『近代日本におけるフランス建築理論と教育手法の受容－中村順平の理論と教育を中心として』横浜国立大学大学院都市イノベーション学府、2015（博士学位論文）  
三宅理一編『SD7811 特集 ボザール その栄光と歴史の全貌』鹿島出版会、1978  
横浜高等工業学校建築学科教室編『横浜高等工業学校建築学科建築設計競技図集』洪洋社、1937

- 
- 1) 三宅理一「強烈な異国体験に生きた孤高の建築家 中村順平」『近代日本の異色建築家』（朝日選書 261:近江栄・藤森照信編）pp.183-192、朝日新聞社、1984、p.191
  - 2) 横浜高等工業学校編『横浜高等工業学校一覧』横浜高等工業学校
  - 3) 鈴木在職期間中の文部省編『文部省職員録』文部省を参照
  - 4) 横浜高等工業学校建築学科教室編『横浜高等工業学校建築学科建築設計競技図集』洪洋社、1937。この図集は、主に中村が1927年から1937年にかけて出題した設計競技課題が抜粋され、課題文と学生たちの優秀作品が掲載されている。なお、図集の体裁は、エコール・デ・ボザールの年次設計競技図集“Les Concours d'Architecture de l'Année scolaire”を範としている。

- 5) 『問題表』では第 18 回生部分の表題が「第 19 回生」となっているが、本稿では当該回生別リストに表記された人名から第 18 回生であると判断した。
- 6) 最終確認日は 2017 年 11 月 29 日。
- 7) 「エスキス」課題は横浜高等工業学校ならびに中村の私塾である中村塾共通で行なわれ、同様の課題に対し、通常、横浜高等工業学校の学生は 16 時間で、学外の中村塾生は 12 時間でその解答案を制作した。
- 8) 『図集』では「エスキス」を「略設計」としているが、本稿では『問題表』内の表記「エスキス」を採用した。中村資料で使用される用語は文献により異なるため、今後整理が必要だろう。
- 9) 横浜高等工業学校建築学科教室編、前掲書、「序」、p.1
- 10) 前掲書、「序」、p.1
- 11) 中村順平「建築学」建築世界版、p.67
- 12) 中村順平、前掲書、p.67
- 13) 中村順平『建築という芸術』彰国社、1959、p.81
- 14) 西洋建築の実例では、ギゼー王のピラミッド（エジプト）、バルテノン、エレクティオン（以上、ギリシャ・アテネ）、聖ソフィア寺院（トルコ・コンスタンチノーブル）、カラカラ浴場、コロッセオ、サン・ピエトロ大聖堂、ファルネーゼ宮、オクラヴィアヌス回廊、ピエトロ・マッシミ宮、復讐神マルス神殿、マルチェッロ劇場、シャーロントン病院（以上イタリア・ローマ）、パラッツォ・ドゥカーレ、マルチアーナ図書館（以上、イタリア・ヴェネチア）、ノートルダム大聖堂、ルーヴル宮、コンコルド広場の宮殿、エコール・ミリテール（以上、フランス・パリ）、アミアン大聖堂（フランス・アミアン）、日本建築の実例では、奈良東大寺法華堂、奈良法隆寺夢殿、源義経潜居の間、東山東求堂、本邦の茶室建築などを挙げていることが中村の著書から読み取れる。
- 15) 横浜高等工業学校建築学科教室編、前掲書、「序」、p.2
- 16) 前掲書、「課題文」、p.2
- 17) 前掲書、「序」、p.2
- 18) 前掲書、「序」、p.2
- 19) 前掲書、「序」、p.2
- 20) 前掲書、「序」、p.2
- 21) 前掲書、「序」、p.2
- 22) 書籍では網戸武夫『情念の幾何学』（1985）、展覧会では当館で開催した 2007（平成 19）年、2012（平成 24）年、2015（平成 27）年の展覧会の他、中村順平米寿記念に開催された「日本古典建築遺構建築図画展」（1975）や近年の（一財）神奈川県建築安全協会主催の展覧会「中村順平の軌跡—馬車道駅開業 10 周年を祝して—」（2014）などがある。
- 23) 中村順平「パリ美術院Ⅱ」『新建築』1968 年 3 月号、pp.217-224、新建築社、1968、p.222
- 24) 「エスキス（12 時間）+ 本仕上」：ゴドブフ賞、ルージュヴァン賞、アメリカ公認建築家賞 Prix de reconnaissance des architects americains、アシール・ルクレール賞 Concours Achille Leclere、ドウトゥーシュ・ドゥラージュ・ルー賞 Concours Detouche dit Detouches, Delage et Roux、ポール・ドゥローン賞 Concours Paul Delaon（庭園設計競技）以上 6 課題、12 時間エスキス：エドモン・ラバール賞 Concours Edmond Labarre、以上 1 課題、ローマ大賞 Grand Prix de Rome、以上 1 課題、計 8 課題。ローマ大賞は 1 次、2 次の 2 度の審査を経て最終審査を受けるため、厳密には「エスキス（12 時間）+ 本仕上」とは性質が異なるが、ここでは同等の 1 課題として合算した。



図1 『問題表』表紙・背表紙

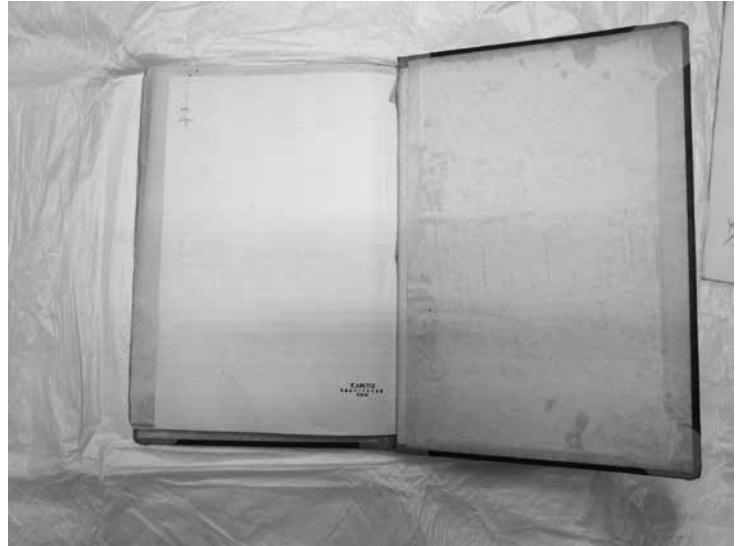


図2 『問題表』1枚目と網戸武夫の事務所印

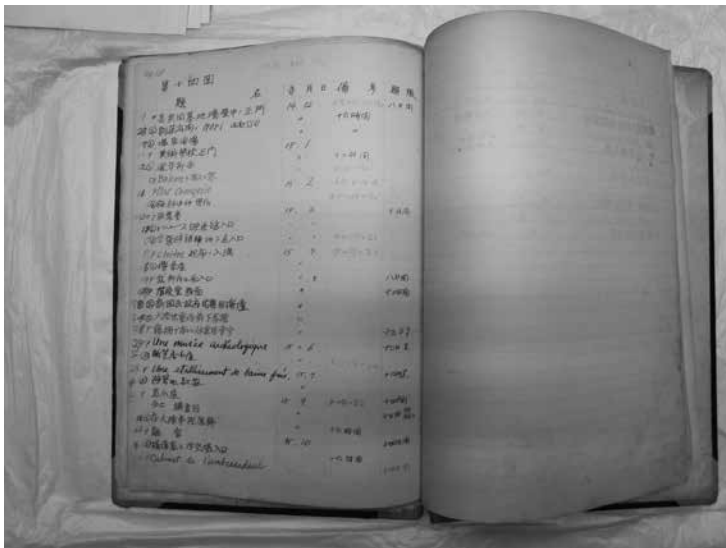


図3 『問題表』見開き例

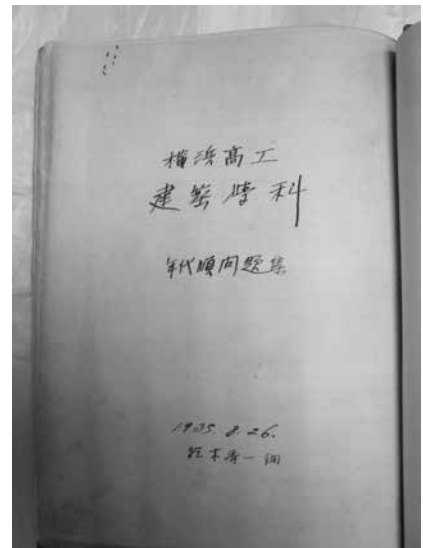


図4 回生別リスト中表紙

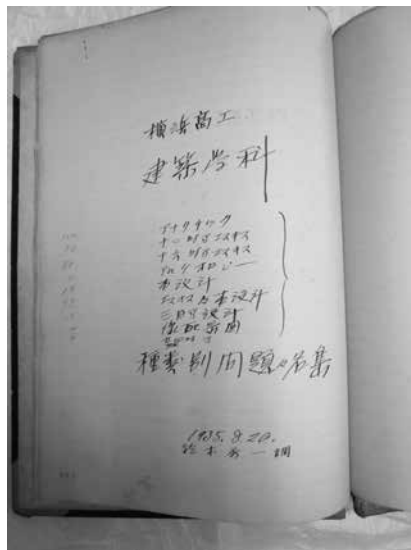


図5 課題種別リスト中表紙



図6 回生別リスト課題掲載例(第6回生)

第十三回

ア) 借用組合	14. 10.		15. 前
イ) 大彫家 atelier	14. 10.	十六時	
ロ) 建築士切腹記念碑	14. 10.	十六時	
ハ) Une Salle de conseil	14. 10.	十七時	15. 前
ニ) 地下鉄直橋塔	14. 11.	十七時	15. 前
ヘ) 辻公園	14. 11.		
コ) 市會議場藝壇	14. 11.		
カ) Casino	15. 1.		15. 前
キ) 華商專門學校大講堂	15. 2.		20. 前
ク) Une tétel particuliere	15. 2.		

図7 筆致の相違1(回生別リスト上)

Voûte en pendentif	14. 9	
有蓋橋梁	14. 5.	
Un musée archéologique	14. 9.	
博物館=瀧水噴水	14. 10.	
借用組合	14. 10	
Une Salle de conseil	14. 10	
辻公園	14. 11	
美術學校正門	15. 1	
裁判所正門入口	15. 5	15. 前
階段室断面	15. 5	
Une Musée archéologique	15. 6	
Une tétel...		

図8 筆致の相違2(課題種別別リスト上)

フナキマク問題  
劇場内入口

本問題ハ大劇場表階段室内ノ大階段踊場ニ観劇場ノ一部ニ通  
ルニ爲シ同室ノ壁ニ外外入口ヲ要スルニ之ヲ配置シ恰ニ Théâtre  
de Bordeaux ノ夫ト類似スルニシテ 入口内法ハ、*tableau* ニテ  
算シ巾ニ2m.00. 高ニ4m.00. 木製又ハ *bronze* 彫刻スルニ  
鏡技者ノ入口ニ表現強調シテ *Ordre ionique* 若クハ *Corinthe*  
ヲ以テ意匠スルコトヲ要求セシム外ハ 凡テ各自ノ任意ナルニテ  
之ガ *caractère* = 特色スルコトヲモテマカス

要求四面 *plan, coupe et façade*  
*échelle 0m.05 p.m.*

期限 十日間

図9 課題文清書例1(鈴木)

フナキマク問題  
劇場内入口

本問題ハ大劇場表階段室内ノ大階段踊場ニ観劇場ノ一部ニ通  
ルニ爲シ同室ノ壁ニ外外入口ヲ要スルニ之ヲ配置シ恰ニ Théâtre de  
Bordeaux ノ夫ト類似スルニシテ 入口内法ハ、*tableau* ニテ  
算シ巾ニ2m.00. 高ニ4m.00. 木製又ハ *bronze* 彫刻スルニ  
鏡技者ノ入口ニ表現強調シテ *Ordre ionique* 若クハ *Corinthe* 以テ  
意匠スルコトヲ要求セシム外ハ 凡テ各自ノ任意ナルニテ  
之ガ *caractère* = 特色スルコトヲモテマカス

要求四面 *plan, coupe et façade*  
*échelle 0m.05 p.m.*

期限 十日間

図10 課題文清書例2(神戸)

才産回生 (網戸兩塚時代)

年月日	備考	期限
1. 1	...	十日間
1. 2	...	十日間
1. 3	...	十日間
1. 4	...	十日間
1. 5	...	十日間
1. 6	...	十日間
1. 7	...	十日間
1. 8	...	十日間
1. 9	...	十日間
1. 10	...	十日間
1. 11	...	十日間
1. 12	...	十日間
1. 13	...	十日間
1. 14	...	十日間
1. 15	...	十日間
1. 16	...	十日間
1. 17	...	十日間
1. 18	...	十日間
1. 19	...	十日間
1. 20	...	十日間
1. 21	...	十日間
1. 22	...	十日間
1. 23	...	十日間
1. 24	...	十日間
1. 25	...	十日間
1. 26	...	十日間
1. 27	...	十日間
1. 28	...	十日間
1. 29	...	十日間
1. 30	...	十日間

図11 第1回生リスト1枚目

生 (網戸兩塚時代)

年月日	備考	期限
1. 1	...	十日間
1. 2	...	十日間
1. 3	...	十日間
1. 4	...	十日間
1. 5	...	十日間
1. 6	...	十日間
1. 7	...	十日間
1. 8	...	十日間
1. 9	...	十日間
1. 10	...	十日間
1. 11	...	十日間
1. 12	...	十日間
1. 13	...	十日間
1. 14	...	十日間
1. 15	...	十日間
1. 16	...	十日間
1. 17	...	十日間
1. 18	...	十日間
1. 19	...	十日間
1. 20	...	十日間
1. 21	...	十日間
1. 22	...	十日間
1. 23	...	十日間
1. 24	...	十日間
1. 25	...	十日間
1. 26	...	十日間
1. 27	...	十日間
1. 28	...	十日間
1. 29	...	十日間
1. 30	...	十日間

図12 図11右上部拡大

(小泉藤田町田 設計)

年月日	備考	期限
6. 1	...	十日間
6. 12.	...	十日間
6. 12.	...	四日内

図13 図6右上部拡大

出典: 図1~8、11~13 『問題表』, 図9~10 私家版

表1 課題種別リスト

課題種別		枚数	掲載課題数
①	アナリチック《日本建築》	3	33
②	アナリチック《西洋建築》	4	121
③	16時間エスキス	6	163
④	12時間エスキス	2	33
⑤	3日間設計	1	15
⑥	設計問題	1	29
⑦	エスキス及本設計	2	34
⑧	24時間エスキス	1	3
⑨	アルケオロジー	1	4
⑩	線配景図	1	4
合計		22	439

表2 回生別リスト

	回生	卒業年月	学年を代表する人物名	枚数	課題数	内訳						
						ア	エ	三	セ	エセ	エセコ	その他
本科												
1	第1回生	1928.3	網戸武夫、石塚喜一郎	2	33	16	6	4	1	3	1	2
2	第2回生	1929.3	石黒佐	2	38	15	10	4	4	2	1	2
3	第3回生	1930.3	羽石渡、北山賢朗	2	36	21	9	-	3	-	1	2
4	第4回生	1931.3	山口挺二、小室守一	1	27	17	5	-	3	-	1	1
5	第5回生	1932.3	丹羽漢吉、君塚泰	2	34	16	11	2	2	1	1	1
6	第6回生	1933.3	小泉勝世、藤田貞雄、町田満男	1	27	11	8	2	4	-	1	1
7	第7回生	1934.3	大旗正二、蒲生久敏	2	34	17	12	1	1	-	1	2
8	第8回生	1935.3	小森豊吉、安井善次郎	1	28	16	8	2	-	-	1	1
9	第9回生	1936.3	伊東銈亮、明珍昌尚、大智正	2	35	14	18	1	1	-	1	-
10	第10回生	1937.3	大瀧栄蔵、福井潔、八木章	2	50	18	29	1		1	1	-
11	第11回生	1938.3	大部友之、岩本健吾、長谷川治	2	47	18	26	1	1		1	-
12	第12回生	1939.3	佐藤芳郎、河邊弘、渡辺繁一、明新治富	2	42	17	21	1	3	-	-	-
13	第13回生	1940.3	安部憲一郎、吉田実、只腰一久	2	38	18	17	-	2	-	-	1
14	第14回生	1941.3	秋庭巍、村上潤、山下理	2	32	15	15	-	1	-	-	1
15	第15回生	1941.12	菊地朔郎、中隈信光、大川忠、浜田重朗	1	27	13	14	-	-	-	-	-
16	第16回生	1942.9	松本陽一、柳田操、北村泰彦、朝日保	1	26	11	12	-	1	-	-	2
17	第17回生	1943.9	大王義人、小林英夫、岡本吉夫	1	10	5	5	-	-	-	-	-
18	第18回生	1944.9	中西祐一、植松二郎、和田亮太	1	8	(3)	(5)	-	-	-	-	-
研究生												
19	第1回生		石黒佐、吉原慎一郎、坂本俊男、鈴木秀一	1	9	-	3	-	6	-	-	-
20	第2回生		羽石渡、北山賢朗	1	8	-	3	-	5	-	-	-
21	第3回生		君塚泰		9	-	3	1	4	1	-	-
22	第4回生		小泉勝世、林久満	1	4	1	3	-	-	-	-	-
23	第5回生		神戸蕃、三谷茂		17	-	14	-	1	2	-	-
24	昭和17年度		上田良治、沢田高明	1	14	(13)	(1)	-	-	-	-	-
			市原隆夫		6	(4)	(1)	-	(1)	-	-	-
			松本陽一		7	(6)	-	-	(1)	-	-	-
			北村泰彦、柳田操、神木東一		7	(6)	(1)	-	-	-	-	-
	共通(16時間エスキス問題)	8	-	8	-	-	-	-	-	-		
25	昭和18年度		平尾榮美、石川末子	1	5	5	-	-	-	-	-	
合計				34	666	296	268	20	45	10	11	16

表3 回生別課題一覧表

分類	番号	題名	種別	年	月	日	期限
01-001	1	海軍省正面中央	ア	1927	1	-	8d
01-002	2	横浜市美術館	ア	1927	1	-	10d
01-003	3	公園内ノ橋梁	ア	1927	2	-	10d
01-004	4	Balancement ヲ有スル鉄筋コンクリート階段	ア	1927	2	-	4w
01-005	5	横浜市復興記念大噴水	ア	1927	2	-	9月25日
01-006	6	親樓遊覧船	エ	1927	3	-	16h
01-007	7	奈良公園内共同便所	ア	1927	3	-	1w
01-008	8	美術館大広間正面入口	ア	1927	3	-	10d
01-009	9	狐島ノ pavillon	エ	1927	4	-	16h
01-010	10	Columbarium 納骨堂	ア	1927	4	-	10d
01-011	11	表広庭ノ囲障	ア	1927	4	-	10d
01-012	12	大舞踏室内ノ大ストーブ	ア	1927	5	-	2w
01-013	13	大邸宅翼ノ隅館	アエ	1927	5	-	19d
01-014	14	飛鳥天平美術及参考品販売店店頭装飾	三	1927	5	-	3d
01-015	15	常陸丸殉難記念碑	ア	1927	6	-	6d
01-016	16	馬術練習所	エセ	1927	6	-	20d
01-017	17	宮殿内庭入隅	ア	1927	6	-	1w
01-018	18	世界飛行歓迎記念門	三	1927	7	-	3d
01-019	19	海水浴場ニ於ケル Casino	ア	1927	7	-	10d
01-020	20	職工住宅	セ	1927	9	-	17d
01-021	21	画家 Monet ノ碑	エ	1927	9	-	10h
01-022	22	奏楽堂	ア	1927	10	-	15d
01-023	23	表ノ広場	エ	1927	10	-	16h
01-024	24	橋梁装飾	エ	1927	10	-	10h
01-025	25	某地小御用邸内フランス庭園	ア	1927	11	-	10d
01-026	26	大正記念館	三	1927	11	-	3d
01-027	27	京浜復興記念聯合大博覧会美術工芸館	三	1927	12	-	3d
01-028	28	植物実験室	エセ	1927	12	-	15d
01-029	29	鎌倉大仏石窟殿	エ	1928	1	-	10h
01-030	30	共同住宅	エセ	1928	1	-	20d
01-031	31	横浜高等工業学校大講堂	エセコ	1928	1	-	第3学期末
01-032	32	Salle de pas-perdus	ア	1927	1	-	4月9日
01-033	33	アルケオロジー 十三～十四世紀建築様式	アルケ	1927	4	-	4月末日
02-001	34	宮殿内庭入隅	ア	1927	5	-	1w
02-002	35	御大葬	エ	1927	5	-	12h
02-003	36	納骨堂	ア	1927	5	-	不明
02-004	37	表広庭ノ囲障	ア	1927	6	-	10d
02-005	38	奈良公園内共同便所	ア	1927	6	-	1w
02-006	39	狐島ノ pavillon	エ	1927	6	-	16h
02-007	40	世界飛行歓迎記念門	三	1927	7	-	3d
02-008	41	古戦場ノ鐘樓	エ	1927	9	-	12h

分類	番号	題名	種別	年	月	日	期限
02-009	42	横浜市復興記念大噴水	ア	1927	9	-	不明
02-010	43	某記念建築物玄関	ア	1927	10	-	8d
02-011	44	美術館大広間正面入口	ア	1927	10	-	10d
02-012	45	横浜市美術館	ア	1927	10	24	10d
02-013	46	京浜復興記念聯合大博覧会正門	エ	1927	11	10	16h
02-014	47	海軍省正面中央	ア	1927	12	-	8d
02-015	48	某温泉浴場内フランス庭園	ア	1927	12	-	12d
02-016	49	Salon 装飾	ア	1927	12	-	15d
02-017	50	吉備津神社屋根改築設計	エ	1927	12	12	16h
02-018	51	梅ノ茶屋	エ	1928	1	-	16h
02-019	52	職工住宅	セ	1928	1	-	不明
02-020	53	横浜櫻道下隧道入口	ア	1928	2	-	10d
02-021	54	獵友会会所	ア	1928	2	-	10d
02-022	55	瓶原離宮旧跡内校倉	ア	1928	3	-	8d
02-023	56	宮殿内宴会所	三	1928	3	-	3d
02-024	57	Balancement ヲ有スル鉄筋コンクリート階段	ア	1928	3	-	4w
02-025	58	小都市中央仮市場	セ	1928	4	-	10d
02-026	59	十二世紀ヨリ十九世紀間ニ於ケル日本又ハ欧州ノ建築様式	アルケ	1928	4	-	春休み
02-027	60	劇場内客用大階段室	エ	1928	5	1	16h
02-028	61	ドームノ研究	アエ	1928	5	-	20d
02-029	62	白虎隊ノ碑	エ	1928	6	-	12h
02-030	63	Casino	エセ	1928	6	-	1m
02-031	64	木造ノGalerie d'honneur	セ	1928	9	-	1w
02-032	65	御大典奉祝装飾車 element decorative	エ	1928	10	18	12h
02-033	66	Un grand Magasin	エセ	1928	9	20	30d
02-034	67	某高等専門学校大講堂	セ	1928	11	7	4w
02-035	68	公園内ノ地下鉄道入口	三	1928	12	14	3d
02-036	69	交通博物館	エセコ	1928	1	15	第3学期末
02-037	70	大活動写真館	セ	1928	12	19	5d
02-038	71	街燈	三	1929	1	9	3d
03-001	72	某大使館正面中央	ア	1928	5	-	10d
03-002	73	某共同墓地牆壁中ノ正門	ア	1928	5	-	8d
03-003	74	日本海海戦ニ於ケル東郷元帥ノ碑	エ	1928	6	-	16h
03-004	75	三溪園内ノ木造柱列	ア	1928	6	-	8d
03-005	76	某国立劇場側面車寄及馬車廻	ア	1928	6	12	10d
03-006	77	Olympique 競技場大入口	ア	1928	6	22	8d
03-007	78	美術館正面入口	ア	1928	6	29	8d
03-008	79	池畔ノgrotte 洞窟	エ	1928	7	-	16h
03-009	80	歩兵小隊ノ営舎	ア	1928	9	14	10d
03-010	81	線背景図問題	ハ	1928	9	25	1w
03-011	82	直線階段	ア	1928	10	1	8d
03-012	83	イタリー寄贈大円柱ヲ以ツテスル白虎隊ノ碑	エ	1928	10	10	16h

分類	番号	題名	種別	年	月	日	期限
03-013	84	横浜市美術館	ア	1928	10	24	10d
03-014	85	自働車abri	ア	1928	10	13	8d
03-015	86	Orangerie	ア	1928	12	12	10d
03-016	87	高架鉄道下ノ店頭	エ	1928	12	-	16h
03-017	88	職工住宅	セ	1929	1	14	20d
03-018	89	木造門	エ	1929	2	5	16h
03-019	90	Balancementヲ有スル木造階段	ア	1928	11	26	2w
03-020	91	客室ノCheminée暖炉	ア	1929	2	7	12d
03-021	92	日光廟境内共同便所	ア	1929	2	25	10d
03-022	93	Art gothique	アルケ	1929	3	-	12d
03-023	94	平城宮遺跡内ノ案内表	エ	1929	5	-	16h
03-024	95	池畔ノ小宮殿	ア	1929	5	14	10d
03-025	96	四つ目垣treillageノ吾妻家	ア	1929	3	7	10d
03-026	97	電車終点駅	ア	1929	5	27	12d
03-027	98	鷄冠山戦死者ノ碑	エ	1929	5	21	16h
03-028	99	水浴場	ア	1929	6	10	15d
03-029	100	溪谷ノ喫茶店	ア	1929	6	25	5d
03-030	101	表広庭ノ囲障	ア	1929	9	11	20d
03-031	102	集合住宅	セ	1929	10	15	1m
03-032	103	日本風ノGalerie(校長室)	エ	1929	12	10	12h
03-033	104	某地小御用邸内フランス庭園	ア	1929	11	-	10d
03-034	105	ホテル	セ	1929	11	22	10d
03-035	106	大講堂	エセコ	1930	1	13	第3学期末
03-036	107	菊花陳列場	エ	1929	12	5	12h
04-001	108	納骨堂	ア	1929	10	-	不明
04-002	109	公園内ノ橋梁	ア	1929	10	14	10d
04-003	110	公園内ノpavillon小殿堂	ア	1929	10	25	10d
04-004	111	木造住宅ノ屋根	エ	1929	12	9	16h
04-005	112	公衆道路上ノ有蓋渡廊下	ア	1929	12	2	10d
04-006	113	Loggia風ノVestibule玄関	ア	1929	12	-	12d
04-007	114	Balancementヲ有スル木造階段	ア	1929	12	-	1w
04-008	115	美術館正面入口	ア	1930	1	-	8d
04-009	116	梅ノ茶屋	エ	1930	1	-	16h
04-010	117	建築士会本部	ア	1930	1	24	12d
04-011	118	小市場	ア	1930	2	7	12d
04-012	119	アルケオロジー—Gothique	アルケ	1930	2	-	不明
04-013	120	室内装飾Salon	ア	1930	2	-	不明
04-014	121	日本海海戦記念碑	エ	1930	5	6	16h
04-015	122	校倉	ア	1930	5	-	不明
04-016	123	奏楽堂	ア	1930	6	-	15d
04-017	124	Casino	ア	1930	7	-	12d
04-018	125	池畔ノ離家	ア	1930	-	-	夏休み



分類	番号	題名	種別	年	月	日	期限
04-019	126	共同墓地入口	ア	1930	-	-	夏休み
04-020	127	図書館入口	ア	1930	-	-	夏休み
04-021	128	市内紳士住宅	セ	1930	9	29	25d
04-022	129	Player board	エ	1930	10	28	12h
04-023	130	小料理店	エ	1930	10	20	16h
04-024	131	直線階段	ア	1930	11	-	8d
04-025	132	職工住宅	セ	1930	11	-	不明
04-026	133	小学校	セ	1930	12	2	1m
04-027	134	美術陳列館	エセコ	1931	1	-	第3学期末
05-001	135	池畔ノ離レ家	ア	1930	7	4	1w
05-002	136	某共同墓地牆壁中ノ正門	ア	1930	7	-	8d
05-003	137	海軍省正面中央	ア	1930	9	20	8d
05-004	138	国立美術院内図書館入口	ア	1930	10	3	10d
05-005	139	小料理店	エ	1930	10	20	16h
05-006	140	某記念建築物玄関	ア	1930	10	18	10d
05-007	141	小食堂暖炉	ア	1930	12	16	1w
05-008	142	馬匹水飲所	エ	1930	12	-	16h
05-009	143	Olympique 競技場大入口	ア	1931	2	-	8d
05-010	144	梅林中ノ展望用舞台	エ	1931	2	7	16h
05-011	145	木造長屋門	ア	1930	12	6	1w
05-012	146	Balancement ヲ有スル木造階段	ア	1931	1	22	2w
05-013	147	米国シカゴ万国博日本出品館	ア	1931	2	11	10d
05-014	148	宮中池上遊覧船	エ	1931	2	-	16h
05-015	149	横浜市美術館	ア	1931	2	20	10d
05-016	150	劇場内客用大階段室	ア	1931	3	21	12d
05-017	151	アルケオロジイ イタリアー十五世紀復興様式ノ研究	アルケ	1931	4	-	4月中
05-018	152	平城京遺跡内ノ案内表	エ	1931	4	-	16h
05-019	153	大 Galerie ノー travée 小間	ア	1931	5	5	12d
05-020	154	電車終点駅	ア	1931	5	-	12d
05-021	155	深山中ノ貸別荘	エ	1931	6	-	16h
05-022	156	燈台守ノ家	エ	1931	7	-	16h
05-023	157	某富豪別荘内フランス庭園	ア	1931	5	19	12d
05-024	158	小市場	ア	1931	9	12	20d
05-025	159	職工住宅(一家族用)	セ	1931	9	14	20d
05-026	160	航空研究犠牲者ノ記念碑	エ	1931	10	-	12h
05-027	161	ガソリン販売所	エ	1931	10	-	12h
05-028	162	玉座	エ	1931	11	-	12h
05-029	163	日本公使館	セ	1931	10	-	1m
05-030	164	神奈川県庁広場ノ噴水	エセ	1931	12	-	10d
05-031	165	北満野戦病院	三	1931	12	-	3d
05-032	166	地下鉄道停車場入口	三	1932	1	-	3d
05-033	167	日本美術陳列館	エセコ	1932	1	-	第3学期末

分類	番号	題名	種別	年	月	日	期限
05-034	168	満州鉄道国賓客車内装飾	エ	1932	2	-	12h
06-001	169	陸軍省正門ト困障	ア	1931	11	-	10d
06-002	170	裁判所大控室内正面入口	ア	1931	12	-	10d
06-003	171	某貴族別邸表門	ア	1931	12	-	4d
06-004	172	Cloitre 廻廊ノ入隅	ア	1932	1	-	8d
06-005	173	日本海海戦記念碑	エ	1932	1	-	16h
06-006	174	某大使館正面中央	ア	1932	2	-	12d
06-007	175	古戦場ノ鐘楼	エ	1932	2	-	16h
06-008	176	梅林中ノ展望用舞台	ア	1932	2	-	7d
06-009	177	歩兵小隊ノ営舎	ア	1932	2	17	10d
06-010	178	江湾競馬場戦勝大凱旋門	エ	1932	3	5	16h
06-011	179	宮中御苑内奏楽堂	ア	1932	4	20	10d
06-012	180	奈良公園内ノ水屋	エ	1932	4	-	16h
06-013	181	公園中ノCafé-Restaurant	ア	1932	5	-	2w
06-014	182	Balancement ヲ有スル鉄筋コンクリート階段	ア	1932	5	-	1w
06-015	183	田舎ノ別荘	ア	1932	6	-	10d
06-016	184	橋梁装飾	エ	1932	6	-	16h
06-017	185	某温泉浴場内庭園	セ	1932	6	16	12d
06-018	186	満州国宮殿正門	三	1932	7	-	3d
06-019	187	二十四人用食堂	セ	1932	9	-	12d
06-020	188	中尊寺石燈	ハ	1932	10	-	2d
06-021	189	職工住宅 二家族用	セ	1932	10	-	12d
06-022	190	大東京市交通案内所	エ	1932	10	-	12h
06-023	191	Golf 倶楽部	セ	1932	11	-	1m
06-024	192	公園内放送塔	エ	1932	11	-	12h
06-025	193	硝子工場	三	1933	1	-	3d
06-026	194	在満州通過駅	エセコ	1933	1	-	第3学期末
06-027	195	西部博士之墓	エ	1933	2	-	12h
07-001	196	某共同墓地牆壁中ノ正門	ア	1932	9	-	8d
07-002	197	陸軍省正門ト困障	ア	1932	10	-	10d
07-003	198	公園内ノ橋梁	ア	1932	10	-	12d
07-004	199	国立美術院内図書館入口	ア	1932	11	21	10d
07-005	200	Loggia 風ノ Vestibule 玄関	ア	1932	12	-	12d
07-006	201	公園内放送塔	エ	1932	11	-	16h
07-007	202	Ordre 詳細部ノ研究	ア	1932	12	-	2d
07-008	203	海軍省正面中央	ア	1932	12	-	8d
07-009	204	梅ノ茶屋	ア	1933	1	-	6d
07-010	205	地下鉄道停車場入口	エ	1933	2	-	16h
07-011	206	横浜市美術館	ア	1933	2	6	10d
07-012	207	Balancement ヲ有スル石造階段	ア	1933	2	-	12d
07-013	208	百濟観音陳列箱	エ	1933	4	-	16h
07-014	209	博覧会奏楽堂	ア	1933	4	14	12d

分類	番号	題名	種別	年	月	日	期限
07-015	210	池畔ノ小宮殿	ア	1933	5	4	10d
07-016	211	軍馬ノ供養塚	エ	1933	5	-	16h
07-017	212	在満州中学校体操場	ア	1933	5	-	10d
07-018	213	孔雀小屋	エ	1933	6	-	16h
07-019	214	水浴場	ア	1933	6	-	10d
07-020	215	山ノ家	エ	1933	7	-	16h
07-021	216	狐島ノ小学校	ア	1933	7	-	7d
07-022	217	中世期ノ Ouverture 研究	アルケ	1933	9	-	10d
07-023	218	某温泉浴場内フランス庭園	ア	1933	9	-	15d
07-024	219	遊覧自動車	エ	1933	9	-	16h
07-025	220	島津義久逆襲五輪塔	ハ	1933	10	24	3d
07-026	221	大舞踏室室内装飾	ア	1933	10	-	2w
07-027	222	田園住宅	エ	1933	11	-	16h
07-028	223	大綱秀吉大陸討伐ノ碑	エ	1933	12	-	12h
07-029	224	在満州高官用官舎	セ	1933	11	-	1m
07-030	225	昭和義塾文科大学	三	1934	1	-	3d
07-031	226	《Play-Guide》店頭装飾	エ	1933	12	-	12h
07-032	227	活動写真館	エセコ	1934	1	-	第3学期末
07-033	228	皇太子殿下御●●	エ	1934	1	22	12h
07-034	229	東京湾台場大篝	エ	1934	2	-	12h
08-001	230	某共同墓地牆壁中ノ正門	ア	1933	11	-	8d
08-002	231	大綱秀吉大陸討伐ノ碑	エ	1933	12	-	16h
08-003	232	陸軍省正門ト困障	ア	1933	11	-	10d
08-004	233	皇室選擇所	ア	1933	12	-	10d
08-005	234	裁判所玄関	ア	1934	1	-	10d
08-006	235	皇太子殿下御●●	エ	1934	1	22	16h
08-007	236	美術館内庭 portique	ア	1934	2	-	12d
08-008	237	Balancement ヲ有スル木造階段	ア	1934	2	14	2w
08-009	238	Galerie de collections	ア	1934	3	-	9d
08-010	239	宮殿内庭入隅	ア	1934	4	-	8d
08-011	240	奈良公園内鹿水飲所	エ	1934	4	-	16h
08-012	241	美術館正面入口	ア	1934	4	28	8d
08-013	242	横浜市美術館	ア	1934	5	-	10d
08-014	243	溪谷ノ喫茶店	ア	1934	5	29	5d
08-015	244	日本海海戦ニ於ケル東郷元帥ノ碑	エ	1934	5	-	16h
08-016	245	温泉浴場	エ	1934	6	-	16h
08-017	246	水浴場	ア	1934	6	-	15d
08-018	247	海水浴場監視者詰所	エ	1934	7	-	16h
08-019	248	Style Empire	アルケ	1934	9	11	不明
08-020	249	Une Campanile	ア	1934	9	-	10d
08-021	250	博覧会場内菓子売店	エ	1934	10	-	16h
08-022	251	横浜復興大博覧会正門及困障	ア	1934	10	-	12d

分類	番号	題名	種別	年	月	日	期限
08-023	252	劇場内 Foyer	ア	1934	11	-	15d
08-024	253	京都店頭正面	エ	1934	11	-	16h
08-025	254	Un square	ア	1934	11	-	15d
08-026	255	職工住宅	三	1934	12	-	3d
08-027	256	Un gymnase	エセコ	1935	1	-	第3学期末
08-028	257	帝室美術図書館	三	1934	12	-	3d
09-001	258	Un Columbarium	ア	1934	12	-	10d
09-002	259	土産品売店	エ	1934	12	-	16h
09-003	260	牡蠣船	エ	1934	12	22	16h
09-004	261	Orangerie	ア	1935	1	9	10d
09-005	262	満洲国皇帝歓迎門	エ	1935	1	-	16h
09-006	263	華族会館正門及塀	ア	1935	1	-	10d
09-007	264	渡シ守ノ家	エ	1935	1	28	16h
09-008	265	千早城址ノ碑	エ	1935	2	-	16h
09-009	266	劇場内入口	ア	1935	2	-	10d
09-010	267	電車通過駅	エ	1935	2	-	16h
09-011	268	大阪城内共同便所	ア	1935	2	-	8d
09-012	269	逍遥坪内博士之墓	エ	1935	3	5	16h
09-013	270	某官省正面中央	ア	1935	4	-	12d
09-014	271	奈良市自動電話	エ	1935	4	-	16h
09-015	272	居酒屋	エ	1935	3	-	16h
09-016	273	三溪園内ノ木造柱列	ア	1935	5	-	8d
09-017	274	修学院離宮内石燈籠	三	1935	5	-	3d
09-018	275	謡曲指南所	エ	1935	5	-	16h
09-019	276	煙州鈴木達治氏之墓	エ	1935	5	31	16h
09-020	277	木造牛小屋	ア	1935	5	-	10d
09-021	278	故東郷元帥遺髪陳列箱	エ	1935	5	-	16h
09-022	279	前校長鈴木達治氏記念碑	エ	1935	6	-	16h
09-023	280	電車終点駅	ア	1935	6	-	12d
09-024	281	瀑見茶屋	エ	1935	6	-	16h
09-025	282	Treillage ノ pavillon	ア	1935	6	-	7d
09-026	283	Une Banque	ア	1935	9	-	15d
09-027	284	客室ノ Cheminée 暖炉	ア	1935	10	-	12d
09-028	285	菊花陳列場	エ	1935	10	-	16h
09-029	286	獵友会会所	ア	1935	11	-	12d
09-030	287	獵友会会場大 Salonノ暖炉	エ	1935	11	18	16h
09-031	288	湖畔ホテルフランス庭園	ア	1935	11	-	15d
09-032	289	紙芝居小屋	エ	1935	11	-	16h
09-033	290	職工住宅 一家族用	セ	1935	11	-	20d
09-034	291	宮城二重橋	エ	1936	1	-	16h
09-035	292	Un temple protestant	エセコ	1936	1	-	第3学期末
10-001	293	墳墓	ア	1935	9	-	8d

分類	番号	題名	種別	年	月	日	期限
10-002	294	陸軍省正門及困障	ア	1935	10	-	10d
10-003	295	自動車 abri	ア	1935	10	-	8d
10-004	296	Cloitre 廻廊ノ入隅	ア	1935	11	-	8d
10-005	297	猟友会会場大 Salonノ暖炉	エ	1935	11	18	16h
10-006	298	紙芝居小屋	エ	1935	11	-	16h
10-007	299	能楽出品館	エ	1935	12	-	16h
10-008	300	裁判所大控室内正面入口	ア	1935	12	-	10d
10-009	301	地下鉄道換気塔	エ	1935	12	-	16h
10-010	302	共同浴場	エ	1935	12	-	16h
10-011	303	陸軍省正面中央	ア	1936	1	-	12d
10-012	304	鼠塚	エ	1936	1	-	16h
10-013	305	池畔ノ離レ家	ア	1936	1	-	7d
10-014	306	三等郵便局	エ	1936	1	-	16h
10-015	307	共同墓地内ノ噴水	エ	1936	2	-	16h
10-016	308	Balancement フ有スル鉄筋コンクリート階段	ア	1936	2	-	12d
10-017	309	Un Colombier	エ	1936	2	-	16h
10-018	310	傾斜地ノ玄関	ア	1936	2	-	10d
10-019	311	梅林中ノ共同便所	エ	1936	2	-	16h
10-020	312	某市美術館	ア	1936	4	-	10d
10-021	313	聖徳太子厨子	エ	1936	4	-	16h
10-022	314	通天橋中央 pavillon	ア	1936	4	-	10d
10-023	315	動物園内羊小屋	エ	1936	5	-	16h
10-024	316	藤見茶屋	エ	1936	5	-	16h
10-025	317	三原山地蔵堂	エ	1936	5	-	16h
10-026	318	Un Dôme ノ研究	ア	1936	5	-	15d
10-027	319	艇庫	エ	1936	5	-	16h
10-028	320	馬小屋	ア	1936	6	-	8d
10-029	321	祭禮用神輿	エ	1936	6	-	16h
10-030	322	Un Casino	ア	1936	6	-	12d
10-031	323	Un atelier de peintre	エ	1936	6	-	16h
10-032	324	燈台守ノ家	エ	1936	7	-	16h
10-033	325	梶原神宮前文化燈	エ	1936	9	-	16h
10-034	326	歩兵大隊ノ営舎	ア	1936	9	-	10d
10-035	327	Une Cascade	ア	1936	9	-	15d
10-036	328	Grand Opéra 観覧場電燈	エ	1936	9	-	16h
10-037	329	Salon 裝飾	ア	1936	10	-	15d
10-038	330	流行服店店頭	エ	1936	10	-	16h
10-039	331	菊人形展覧会場正門	エ	1936	11	-	16h
10-040	332	某温泉浴場内フランス庭園	ア	1936	11	-	15d
10-041	333	Grand salon de luxe 内 grand piano	エ	1936	11	-	16h
10-042	334	職工住宅	セ	1936	11	-	15d
10-043	335	赤穂義士ノ碑	エ	1936	12	14	16h

分類	番号	題名	種別	年	月	日	期限
10-044	336	大講堂	エセコ	1937	1	-	第3学期末
10-045	337	貸事務所	三	1937	1	-	3d
10-046	338	田家之雪	エ	1937	1	15	12h
10-047	339	Olympique 用 stade 玉座	エ	1937	2	-	12h
10-048	340	梅林中休憩所	エ	1937	2	-	12h
10-049	341	動物園正門	エ	1937	2	-	16h
10-050	342	《本能寺変》ノ décors	エ	1937	3	-	16h
11-001	343	Un columbarium	ア	1936	10	5	10d
11-002	344	陸軍省正門及囲障	ア	1936	11	-	10d
11-003	345	菊人形展覽会場正門	エ	1936	11	-	16h
11-004	346	木造長屋門	ア	1936	11	-	1w
11-005	347	Grand salon de luxe 内 grand piano	エ	1936	11	-	16h
11-006	348	宮殿正面入口	ア	1936	12	-	8d
11-007	349	Une Loge	ア	1936	12	-	8d
11-008	350	赤穂義士ノ碑	エ	1936	12	14	16h
11-009	351	宮殿内庭入隅	ア	1937	1	8	1w
11-010	352	田家之雪	エ	1937	1	15	16h
11-011	353	宮中乗船場	ア	1937	1	-	10d
11-012	354	Olympique 用 stade 玉座	エ	1937	2	-	16h
11-013	355	美術館内庭 portique	ア	1937	2	-	12d
11-014	356	梅林中休憩所	エ	1937	2	-	16h
11-015	357	動物園正門	エ	1937	2	-	16h
11-016	358	科学博物館入口	ア	1937	2	-	10d
11-017	359	《本能寺変》ノ décors	エ	1937	3	-	16h
11-018	360	某国立劇場側面車寄及馬車廻	ア	1937	4	12	10d
11-019	361	美術館表階段踊場	エ	1937	4	-	16h
11-020	362	宮殿ノ Pavillon d'angle	ア	1937	4	-	12d
11-021	363	Une Pergola	エ	1937	4	-	16h
11-022	364	琵琶湖丸	エ	1937	4	-	16h
11-023	365	英国戴冠式奉祝塔	エ	1937	5	-	16h
11-024	366	直線階段	ア	1937	5	-	10d
11-025	367	建築科山車	エ	1937	6	-	16h
11-026	368	有料便所	エ	1937	6	7	16h
11-027	369	工芸美術商店舗	エ	1937	6	14	16h
11-028	370	池畔ノ離レ家	ア	1937	6	-	8d
11-029	371	Un Kiosque de boissons	エ	1937	6	-	16h
11-030	372	漁夫ノ家	ア	1937	7	-	7d
11-031	373	有蓋調馬場	ア	1937	9	-	8d
11-032	374	Yacht-Club	エ	1937	9	-	16h
11-033	375	帝国芸術院大講堂	ア	1937	10	-	10d
11-034	376	野戦病院内齋壇	エ	1937	9	-	16h
11-035	377	大使官邸内フランス庭園	ア	1937	10	-	14d

分類	番号	題名	種別	年	月	日	期限
11-036	378	横浜高工記念祭正門裝飾	工	1937	10	-	16h
11-037	379	北京慈恵病院高塔	工	1937	10	-	16h
11-038	380	紅葉茶屋	工	1937	10	-	16h
11-039	381	Une salle de fête	ア	1937	11	-	15d
11-040	382	陸軍戦病死者合同碑	工	1937	11	-	16h
11-041	383	職工住宅	セ	1937	12	-	12d
11-042	384	小癪病院	三	1938	1	-	3d
11-043	385	神苑朝	工	1938	1	-	16h
11-044	386	映画ノStudio	エセコ	1938	1	-	第3学期末
11-045	387	爆弾三勇士ノ墓碑	工	1938	2	-	16h
11-046	388	宮城二重橋	工	1938	3	-	16h
11-047	389	戦死下士兵遺族授産所	工	1938	2	-	24h
12-001	390	紅葉茶屋	工	1937	10	-	16h
12-002	391	陸軍戦病死者合同碑	工	1937	11	-	16h
12-003	392	自働車abri	ア	1937	12	-	8d
12-004	393	別荘広間ノirori adosse	工	1937	12	-	16h
12-005	394	Orangerie	ア	1937	12	9	10d
12-006	395	鬼ヶ島城門	工	1937	12	-	16h
12-007	396	神苑朝	工	1938	1	-	16h
12-008	397	Balconヲ有スル窓	ア	1938	1	-	8d
12-009	398	空襲避難用地下道入口	工	1938	1	-	16h
12-010	399	高架鉄道下ノ店頭	工	1938	1	-	16h
12-011	400	Instituteノ玄関	ア	1938	1	-	8d
12-012	401	昇降機Cabine裝飾	工	1938	2	-	16h
12-013	402	北京公園内共同便所	ア	1938	2	-	10d
12-014	403	宮殿内庭入隅	ア	1938	2	-	8d
12-015	404	爆弾三勇士ノ墓碑	工	1938	2	-	16h
12-016	405	宮城二重橋	工	1938	3	-	16h
12-017	406	薬医門ノ研究	ア	1938	3	-	4d
12-018	407	穹窿ノGalerie	ア	1938	3	-	6d
12-019	408	美術館内裝飾	工	1938	4	-	16h
12-020	409	観櫻橋	ア	1938	4	-	10d
12-021	410	宣撫班用 guignol	工	1938	4	-	16h
12-022	411	癪病院園内鳥籠	工	1938	4	-	16h
12-023	412	外部階段ヲ有スル表入口	ア	1938	5	-	12d
12-024	413	貸舟屋	工	1938	5	-	16h
12-025	414	末端ノPavillon	ア	1938	5	-	15d
12-026	415	小美術館	ア	1938	6	-	12d
12-027	416	女髪結所	工	1938	6	-	16h
12-028	417	燈台	ア	1938	7	-	6d
12-029	418	満州高等専門学校体操場	ア	1938	9	-	10d
12-030	419	建築家アリエ	工	1938	9	-	16h

分類	番号	題名	種別	年	月	日	期限
12-031	420	小図書館	ア	1938	10	-	10d
12-032	421	軍馬祭壇	エ	1938	10	-	16h
12-033	422	大講堂御真影奉安所	エ	1938	10	-	16h
12-034	423	Une Chambre principale	ア	1938	11	-	12d
12-035	424	維新支那館	エ	1938	11	-	16h
12-036	425	美術館前小公園	ア	1938	11	-	12d
12-037	426	横浜工業会会員表忠碑	エ	1938	11	-	16h
12-038	427	在支高官住宅	セ	1938	12	-	23d
12-039	428	活動写真館	セ	1939	1	-	1m
12-040	429	朝陽映島	エ	1939	1	-	16h
12-041	430	在支日本館	エセコ	1939	2	-	第3学期末
12-042	431	支那美術館	三	1939	2	-	3d
13-001	432	墳墓	ア	1938	12	-	8d
13-002	433	菊花陳列場	エ	1938	12	-	16h
13-003	434	吉備津神社屋根改築設計	エ	1938	12	-	16h
13-004	435	陸軍大学正門及囲障	ア	1938	12	-	8d
13-005	436	三溪園内列柱木造	ア	1939	1	-	8d
13-006	437	朝陽映島	エ	1939	1	-	16h
13-007	438	宮殿正面入口	ア	1939	1	-	8d
13-008	439	三等郵便局	エ	1939	1	-	16h
13-009	440	宮殿内庭	ア	1939	2	-	10d
13-010	441	伊勢山神宮大篝火	エ	1939	2	-	16h
13-011	442	Voûte en pendentif / 研究	ア	1939	2	-	12d
13-012	443	梅林中ノ離屋	エ	1939	2	-	16h
13-013	444	木造長屋門	ア	1939	3	-	6d
13-014	445	北京公園内 Kiosque	エ	1939	3	-	16h
13-015	446	有蓋ノ橋梁	ア	1939	4	-	8d
13-016	447	遊覧自動車待合所	エ	1939	4	-	16h
13-017	448	通天橋中央 pavillon	ア	1939	4	-	10d
13-018	449	Une fontaine Wallace	エ	1939	4	-	16h
13-019	450	Treillage / pavillon	ア	1939	5	-	7d
13-020	451	Un musée archéologique	ア	1939	5	-	12d
13-021	452	戦地慰問隊用舞台	エ	1939	5	-	16h
13-022	453	歩兵大隊ノ営舎	ア	1939	5	-	10d
13-023	454	同上構造図	構造	1939	5	-	不明
13-024	455	明治神宮駅 Quais abris	エ	1939	6	-	16h
13-025	456	●●鉄道駅	エ	1939	6	-	16h
13-026	457	電車終点駅	ア	1939	6	-	12d
13-027	458	広場二面スル噴水	ア	1939	9	-	12d
13-028	459	信用組合	ア	1939	10	-	14d
13-029	460	木彫家 atelier	エ	1939	10	-	16h
13-030	461	赤穂義士切腹跡記念碑	エ	1939	10	-	16h



分類	番号	題名	種別	年	月	日	期限
13-031	462	Une salle de conseil	ア	1939	10	-	15d
13-032	463	地下鉄道換気塔	エ	1939	10	-	16h
13-033	464	辻公園	ア	1939	11	-	15d
13-034	465	市会議場演壇	エ	1939	11	-	不明
13-035	466	Casino	ア	不明	-	-	12d
13-036	467	某高等専門学校大講堂	セ	1940	1	-	20d
13-037	468	Une hôtel particulière	セ	1940	2	-	第3学期末
13-038	469	在満結婚用殿堂	エ	1940	2	-	24h
14-001	470	某共同墓地牆壁中ノ正門	ア	1939	12	-	8d
14-002	471	別荘広間ノ irori adosse	エ	1939	12	-	16h
14-003	472	温泉浴場	エ	1939	12	-	16h
14-004	473	美術学校正門	ア	1940	1	-	不明
14-005	474	迎年祈世	エ	1940	1	-	12h
14-006	475	Balcon ヲ有スル窓	ア	1940	1	-	8d
14-007	476	Orangerie	ア	1940	2	-	10d
14-008	477	梅林中休憩所	エ	1940	2	-	16h
14-009	478	能舞台	ア	1940	2	-	10d
14-010	479	ニュース映画館入口	エ	1940	2	-	16h
14-011	480	空襲避難用地下道入口	エ	1940	2	-	16h
14-012	481	Cloitre 廻廊ノ入隅	ア	1940	4	-	8d
14-013	482	桜茶屋	エ	1940	4	-	16h
14-014	483	裁判所正面入口	ア	1940	5	-	8d
14-015	484	階段室断面	ア	1940	5	-	12d
14-016	485	新国民政府式典用演壇	エ	1940	5	-	16h
14-017	486	大陸忠靈塔前下馬標	エ	1940	5	-	16h
14-018	487	藤棚ヲ有スル休息用堂宇	ア	1940	5	-	15d
14-019	488	Un musée archéologique	ア	1940	6	-	12d
14-020	489	紙芝居小屋	エ	1940	6	-	16h
14-021	490	Une établissement de bains frs	ア	1940	7	-	14d
14-022	491	避暑地別荘	エ	1940	7	-	16h
14-023	492	馬小屋	ア	1940	9	-	14d
14-024	493	同上構造図	構造	1940	9	-	10d
14-025	494	在大陸奉祝裝飾	エ	1940	9	-	16h
14-026	495	離宮	ア	1940	10	-	14d
14-027	496	横浜高工防空壕入口	エ	1940	10	-	16h
14-028	497	Un cabinet de l'ambassadeur	ア	1940	10	-	14d
14-029	498	Un atelier de peintre	エ	1940	10	-	16h
14-030	499	大使館邸内フランス庭園	ア	不明	-	-	14d
14-031	500	Grotte 池畔ノ Grotte(洞窟)	ア	不明	-	-	不明
14-032	501	共同住宅	セ	不明	-	-	第3学期末
15-001	502	公衆道路上ノ有蓋渡廊下	ア	不明	-	-	10d
15-002	503	漁村曙	エ	1941	1	-	16h

分類	番号	題名	種別	年	月	日	期限
15-003	504	梅ノ茶屋	エ	1941	1	-	16h
15-004	505	薬医門ノ研究	ア	1941	2	-	不明
15-005	506	大阪城内共同便所	ア	1941	2	-	8d
15-006	507	土産品売店	エ	1941	2	-	16h
15-007	508	Un columbarium	ア	1941	3	-	10d
15-008	509	美術館彫刻陳室内	ア	1941	4	-	不明
15-009	510	電車通過駅	エ	1941	4	-	16h
15-010	511	鳥籠ヲ有スル藤棚	エ	1941	4	-	16h
15-011	512	宮殿正面入口	ア	1941	4	-	8d
15-012	513	日本海海戦ニ於ケル東郷元帥ノ碑	エ	1941	4	-	16h
15-013	514	三溪原富太郎先生碑	エ	1941	5	-	16h
15-014	515	宮中御苑内廻廊	ア	1941	5	-	不明
15-015	516	満州集団移民部落円舞用櫓	エ	1941	5	-	16h
15-016	517	宮殿内庭入隅	ア	1941	6	-	8d
15-017	518	祭典用神輿	エ	1941	6	-	16h
15-018	519	Galerie de collections	ア	1941	6	-	9d
15-019	520	燈台	ア	1941	-	-	不明
15-020	521	在支那移民部落小社祠	エ	1941	6	-	16h
15-021	522	海水浴場監視者詰所	エ	1941	-	-	16h
15-022	523	小市場	ア	1941	-	-	20d
15-023	524	乗合自動車待合所	エ	1941	9	-	16h
15-024	525	在印度支那日本館	エ	1941	9	-	16h
15-025	526	科学大講堂	ア	1941	10	-	不明
15-026	527	中流住宅	ア	1941	11	-	不明
15-027	528	日伯協会大講堂演壇	エ	1941	11	-	16h
16-001	529	某記念建築物玄関	ア	1941	12	-	10d
16-002	530	Balancement ヲ有スル石造階段	ア	1942	1	-	4w
16-003	531	連峰雲	エ	1942	1	-	16h
16-004	532	墳墓	ア	1942	1	-	8d
16-005	533	陸軍大学正門	ア	1942	2	-	不明
16-006	534	京都扇子屋店頭	エ	1942	2	-	不明
16-007	535	東大寺鳥瞰図揭示所	ア	1942	2	-	不明
16-008	536	操人形劇場	エ	1942	3	-	16h
16-009	537	劇場内入口	ア	1942	4	-	10d
16-010	538	Portique ノ研究	ア	1942	4	-	不明
16-011	539	御座船	エ	1942	4	-	16h
16-012	540	古都博物館正門	ア	1942	4	-	不明
16-013	541	歿兵式用土壇	エ	1942	4	-	16h
16-014	542	藤見茶屋	エ	1942	5	-	16h
16-015	543	謡曲指南所	エ	1942	5	-	16h
16-016	544	裁判所正面中央	ア	1942	5	-	不明
16-017	545	軍用鬼供養塚	エ	1942	6	-	16h

分類	番号	題名	種別	年	月	日	期限
16-018	546	市内紳士住宅	セ	1942	7	-	不明
16-019	547	博物館	ア	1942	7	-	不明
16-020	548	同上構造詳細図	構造	1942	8	-	不明
16-021	549	狐島ノ家	工	1942	7	-	16h
16-022	550	昭南島蕎麦屋	工	1942	7	-	16h
16-023	551	職工住宅	ア	1942	8	-	不明
16-024	552	同上詳細図	詳細	1942	9	-	不明
16-025	553	有料便所	工	1942	9	-	16h
16-026	554	昭南島祭禮用神輿	工	1942	9	-	16h
17-001	555	某共同墓地牆壁中ノ正門	ア	1943	5	-	8d
17-002	556	街頭火叩小屋	工	1943	5	-	16h
17-003	557	移動音楽堂	工	1943	5	-	16h
17-004	558	宮殿正面入口	ア	1943	5	-	8d
17-005	559	温泉噴出口裝飾	工	1943	5	-	16h
17-006	560	宮殿表廣庭ノ圍障	ア	1943	5	-	不明
17-007	561	Marionnette 小劇場	工	1943	6	-	16h
17-008	562	大東亜仏教青年大会会場	工	1943	6	-	16h
17-009	563	Cloitre 迴廊ノ入隅	ア	1943	7	-	8d
17-010	564	宮殿表廣庭ノ圍障	ア	不明	-	-	不明
18-001	565	陸軍省正門及圍障	ア	不明	-	-	10d
18-002	566	山田長政ノ碑	工	不明	-	-	16h
18-003	567	宮殿正面入口	ア	不明	-	-	8d
18-004	568	真珠湾緒戦史陳列	工	不明	-	-	16h
18-005	569	海上日出	工	1944	1	-	16h
18-006	570	大東亜民族歡迎門	工	1944	2	-	16h
18-007	571	峠ノ茶屋	工	1944	3	-	16h
18-008	572	橋上納涼場	ア	不明	-	-	不明
01A-001	573	横浜開港大記念建造物	セ	1929	4	12	不明
01A-002	574	フランス新設佛寺大伽藍	セ	1929	9	11	不明
01A-003	575	菊花陳列場	工	1929	10	24	16h
01A-004	576	奈良停車場	セ	1929	9	21	不明
01A-005	577	貸事務所	セ	1929	11	26	不明
01A-006	578	婦人装身具店店頭裝飾	セ	1930	1	-	不明
01A-007	579	馬術倶楽部	セ	1930	2	1	不明
01A-008	580	昭和義塾文科大学	工	1930	3	28	24h
01A-009	581	常陸丸殉難記念碑	ア	1929	5	-	6d
02A-001	582	横浜万国橋橋頭	セ	1930	5	12	不明
02A-002	583	武術館	セ	1930	6	17	不明
02A-003	584	小公園	セ	1930	11	-	不明
02A-004	585	Player board	工	1930	10	28	12h
02A-005	586	小料理店	工	1930	10	20	16h
02A-006	587	裁判所内陪審法廷	セ	1930	12	9	不明

分類	番号	題名	種別	年	月	日	期限
02A-007	588	華族倶楽部内昇降機	セ	1931	1	-	不明
02A-008	589	馬匹水飲所	工	1930	12	-	16h
03A-001	590	帝国美術図書館	三	1933	-	-	3d
03A-002	591	在満州国日本全権大使官邸	エセ	1933	9	-	不明
03A-003	592	満州建国大記念碑	ア	1933	5	7	不明
03A-004	593	西部博士之墓	エ	1933	2	-	12h
03A-005	594	民衆劇場	セ	1932	5	-	不明
03A-006	595	共同浴場	工	1932	5	-	16h
03A-007	596	大東京市交通案内所	工	1932	10	-	12h
03A-008	597	Golf 倶楽部	セ	1932	11	-	1m
03A-009	598	硝子工場	セ	1933	1	-	3d
04A-001	599	百済観音陳列箱	工	1933	4	-	16h
04A-002	600	軍馬ノ供養塚	工	1933	5	-	16h
04A-003	601	孔雀小屋	工	1933	6	-	16h
04A-004	602	狐島ノ小学校	ア	1933	7	-	7d
05A-001	603	市内紳士住宅	セ	1936	4	-	25d
05A-002	604	観光ホテル	エセ	1936	5	-	不明
05A-003	605	大百貨店	エセ	1936	9	-	不明
05A-004	606	聖徳太子厨子	工	1936	4	-	16h
05A-005	607	羊小屋	工	1936	5	-	16h
05A-006	608	三原山地蔵堂	工	1936	5	-	16h
05A-007	609	艇庫	工	1936	5	-	16h
05A-008	610	藤見茶屋	工	1936	5	-	16h
05A-009	611	Un atelier de peintre	工	1936	6	-	16h
05A-010	612	神輿	工	1936	6	-	16h
05A-011	613	燈台守ノ家	工	1936	7	-	16h
05A-012	614	梶原神宮前文化燈	工	1936	9	-	16h
05A-013	615	Grand Opéra 観覧場電燈	工	1936	9	-	16h
05A-014	616	菊人形展覧会場正門	工	1936	11	-	16h
05A-015	617	流行服店店頭	工	1936	10	-	16h
05A-016	618	Grand salon de luxe 内 grand piano	工	1936	11	-	16h
05A-017	619	赤穂義士ノ碑	工	1936	12	14	16h
17A-001	620	Portique ノ研究	ア	不明	-	-	不明
17A-002	621	陸軍大学ノ正門	ア	不明	-	-	不明
17A-003	622	某記念建築物玄関	ア	1941	12	-	10d
17A-004	623	墳墓	ア	1942	1	-	8d
17A-005	624	宮殿入口	ア	不明	-	-	不明
17A-006	625	Loge 風の玄関	ア	不明	-	-	不明
17A-007	626	Orangerie	ア	不明	-	-	10d
17A-008	627	宮殿内庭入隅	ア	不明	-	-	8d
17A-009	628	小宮殿(Grotte)	ア	不明	-	-	不明
17A-010	629	橋梁装飾	工	不明	-	-	16h

分類	番号	題名	種別	年	月	日	期限
17A-011	630	階段室断面	ア	不明	-	-	12d
17A-012	631	Instituteノ玄関	ア	不明	-	-	8d
17A-013	632	某官省正面中央	ア	不明	-	-	12d
17A-014	633	皇室選擇所	ア	不明	-	-	10d
17B-001	634	橋梁裝飾	エ	不明	-	-	16h
17B-002	635	火葬場窯入口	ア	不明	-	-	不明
17B-003	636	某官省正面中央	ア	不明	-	-	12d
17B-004	637	皇室選擇所	ア	不明	-	-	10d
17B-005	638	通天橋中央 pavillon	ア	不明	-	-	10d
17B-006	639	海事図書館	セ	不明	-	-	不明
17C-001	640	大舞踏室室内裝飾	ア	不明	-	-	不明
17C-002	641	美術館前小公園	ア	不明	-	-	8d
17C-003	642	電車終点駅	ア	不明	-	-	12d
17C-004	643	明治大帝記念碑	ア	不明	-	-	不明
17C-005	644	火葬場窯入口	ア	不明	-	-	不明
17C-006	645	通天橋中央 pavillon	ア	不明	-	-	10d
17C-007	646	海事図書館	セ	不明	-	-	不明
17D-001	647	Une salle de conseil	ア	不明	-	-	不明
17D-002	648	美術館前小公園	ア	不明	-	-	8d
17D-003	649	橋梁裝飾	エ	不明	-	-	16h
17D-004	650	火葬場窯入口	ア	不明	-	-	不明
17D-005	651	Pavillon d'Angle	ア	不明	-	-	不明
17D-006	652	皇室選擇所	ア	不明	-	-	10d
17D-007	653	通天橋中央 pavillon	ア	不明	-	-	10d
17F-001	654	御真影奉安所	エ	不明	-	-	16h
17F-002	655	戦地慰問用舞台	エ	不明	-	-	16h
17F-003	656	軍馬祭祭壇	エ	不明	-	-	16h
17F-004	657	農村新年	エ	1943	1	-	16h
17F-005	658	昭南島祭禮用神輿	エ	不明	-	-	16h
17F-006	659	盧溝橋畔経塔	エ	不明	-	-	16h
17F-007	660	超特急隊道入口	エ	不明	-	-	16h
17F-008	661	葬送用自動車	エ	不明	-	-	16h
18A-001	662	Une Loge	ア	不明	-	-	8d
18A-002	663	Balconヲ有スル窓	ア	不明	-	-	8d
18A-003	664	薬医門ノ研究	ア	不明	-	-	4d
18A-004	665	階段室	ア	不明	-	-	不明
18A-005	666	陸軍省正面中央	ア	不明	-	-	12d

(備考)

期限部表記凡例

h：時間， d：日間， w：週間， m：月間

表 4 横浜高工と ENSBA 課題種別対応表

横浜高工の段階		横浜高工の課題種別	ENSBA の課題種別
基礎課程		建築図画	要素分析 Elément d'analytique
練磨課程	基礎設計練習	アナリティック問題	
		十六時間略設計(十六時間エスキスエスキス)	エスキス Concours d'émulation, Esquisse
	創作的設計練習	アルケオロジー設計競技	要素分析 Elément d'analytique 建築史設計 Projet de l'histoire de l'architecture
		十二時間略設計(十二時間エスキスエスキス)	エスキス Concours d'émulation, Esquisse
		二十四時間略設計(二十四時間エスキスエスキス)	
		本設計	設計 Concours d'émulation, Projet rendu
		略設計(十二時間)+本仕上	
略設計(十二時間)+本仕上+構造設計	構造設計 Concours d'émulation, Projet de Construction générale		